

新年号

酪農

とちぎ



- 1 ページ 表紙
- 2 ページ 組合長挨拶
- 3 ページ 栃木県知事挨拶
- 4 ページ 青年部部長挨拶、女性会会長挨拶
- 5 ページ 部課だより（生乳受託課）
- 6 ページ 東西南北、理事会だより、
お知らせ、市場成績

HAPPY
NEW
YEAR
2022

MILK
JAPAN
牛乳が日本を
元気にする。
www.milkjapan.net



MILK JAPAN



新年の挨拶

酪農とちぎ農業協同組合

代表理事組合長 白井 勉



組合員ならびにご家族の皆様方におかれましては、輝かしい新春を迎えられたことと謹んでお慶び申し上げます。

旧年中は、弊組合の事業全般に対しまして、特段のご理解ご協力を賜りましたこと、心から感謝とお礼を申し上げます。

さて、世界で猛威を振るっている新型コロナウイルスは、国内においてはワクチン接種の効果もあり感染状況が落ち着いていますが、新種の変異

株の出現で感染拡大の警戒感が増してきております。岸田内閣のもとで、新型コロナウイルスと経済対策の迅速な対応により、停滞する社会経済活動の正常化と景気回復を切に願う所であります。

酪農情勢につきましては、コロナ禍による生乳需給緩和を背景に全国で年末年始の生乳出荷抑制が必要となり、関東地区におきましては、主要クラスターステーションでの貯乳・配乳と飼料仕向け等を活用した生乳流通量の調整で抑制対応に入りました。

また、乳製品過剰在庫の解消に向け、脱脂粉乳をコロナ前の在庫水準へ削減すべく、酪農・乳業で約80億円を拠出し、事業の実施に向けて国に

も支援を要請し、国内の生乳生産基盤を堅持するため、生乳一体で難局の打開に向かう正念場を迎えています。

組合は、組合員及び役職員をはじめ、関係団体にもご協力をお願いし業務用バターの乳製品購買運動を展開している所ですが、さらに危機感を共有し消費者に対しても牛乳等の消費促進・拡大を進め、国内の生乳需給の安定を図っていくことが重要であります。

酪農経営は、加工率の増加による乳価の下落と飼料等の生産費の上昇により、日を追って厳しさが増しており、生乳需給の安定により、何としても乳価値上げに向けた生乳取引価格の改定に結び付けていくことが喫緊の課題であります。

組合は、第6期中期構想（令和3年度～5年度）を策定し、「多様な酪農の成長を支え、持続可能な酪農を目指す」を基本方針に掲げたなか、現下の酪農を支援すべく、組合独自

の「乳価安定特別積立金」を活用し、昨年11月より本年3月までの5か月間、「経営安定対策助成金（1・4円/kg）」を支払う緊急対策の実施を決定致しました。これからも「何をすべきか、何ができるのか」を考え、皆様方の声を拝聴し意見集約に努め、本組合の組織力を存分に発揮し、組合運営に精励していく所存であります。

全国の生乳生産量は増加の見通しであり、生乳の需給ギャップは予断を許さない状況が続くと考えられますので、需給動向に注視し情報の共有と発信を行い、本組合の力強い生産基盤を守っていただけるよう役員一丸となって事業推進してまいります。

今後とも、組合運営に対しましてご理解ご協力をお願いすると共に、ご家族皆様方のご健勝ご多幸をご祈念申し上げます。新年の挨拶といたします。

令和4年 元旦



新年知事あいさつ

栃木県知事 福田 富一



酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様、あけましておめでとうございます。

まず、新型コロナウイルス感染症対策につきましては、保健・医療提供体制の整備やワクチン接種促進に向けた取組を着実に進めますとともに、引き続き、国や市町、関係機関等と緊密に連携し、県民の暮らしと健康を守るため、必要な対策に万全を期して参ります。

一方、地域経済は大きな打撃を

受け続けており、産業の基盤が脅かされるとともに、企業活動やイベントの白粛・縮小等により、ひとの交流機会が減少している状況にあるため、引き続き、通常に近い社会経済活動の一日も早い回復を図って参ります。

また、昨年、本県で初めてとなる高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱の発生がありました。県といしましては、家畜伝染病の発生及びまん延防止に向け、栃木県飼養衛生管理指導計画に基づいた飼養衛生管理基準の遵守徹底及び防疫体制の強化を図り、総合的に家畜衛生対策を推進して参りますので、皆様におかれましても、自身の経営を守るため、自主点検の実

施とその結果を踏まえた適切な対応をお願いいたします。

さて、本年度からスタートした栃木県農業振興計画「とちぎ農業未来創生プラン」では、「成長産業として持続的に発展する農業・栃木」を基本目標に、多くの若者が本県で就農し、稼げる農業が展開され、農村地域が活性化する好循環を生み出す全国に誇れる就業環境を実現するため、各種施策を展開しているところです。

特に、酪農の振興については、新規就農者の確保・育成を図るため、就農希望者の受入体制整備や遊休施設等を継承する仕組みづくり、実践的な研修体制の構築等に取り組みとともに、経営の体質強化を図るため、地域の実情に応じた規模拡大や法人化等を進めていくほか、ICTや高性能機械等の導入による飼養管理の高度化と省力化を推進して参ります。また、昨今の飼料価格高騰が生産費増大

に大きな影響を与えていることから、水田を活用した飼料の生産拡大や家畜ふん尿堆肥の利用拡大などの耕畜連携を一層進めて参ります。

これらの施策を関係機関・団体等の関係者と一丸となって推進し、生乳生産量全国第2位の本県酪農の持続的な発展を目指して参りますので、皆様のより一層の御理解と御協力をお願いいたします。

本年が酪農とちぎ農業協同組合の組合員、役職員の皆様にとって素晴らしい年となりますことをお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。

令和4年 元旦



新年の挨拶

青年部部長 今

知成



あけましておめでとうございませう。皆様におかれましては、益々のご活躍のこととお慶び申し上げます。部員の皆様、組合役職員の皆様には、青年部活動に対し格段のご協力とご指導を賜り、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。昨年オリンピック、パラリンピックが開催されました。コロナ禍での開催ということで、色々な問題がありました。数々の名シーンの中、たくさんの方々の希望と勇気を頂きました。青年部の活動においては、昨年度と同様に、数々のイベントが中止となりました。その中でも新しい試みとしてリモート会議サービスを用いてゲノム検査についての

研修会を開催しました。多数の方々にご参加いただき、大変有意義な研修会となりました。

11月には、黒磯支部、塩谷支部で小学生・保育園児を対象とした搾乳体験活動が行われ、多くの方々にご協力を頂きました。一般消費者の皆様へ酪農への理解を深めていただける搾乳体験活動は、今後も青年部の基幹事業として継続していきたいと思っております。

今後の青年部活動は、3月中旬頃に牛群管理システムを展開している数社にご協力をいただき、各牛群管理システムの特徴などを解説していただく研修会を予定しております。より良い経営を目指し、部員間の交流・情報交換として新しい技術の知見を深めていければと思っております。

最後になりましたが、飼料費、燃料費等生産費が上昇し、先の見通しがつき辛い状況が続いております。しかしこのような状況だからこそ、「ピンチはチャンス!!」を合言葉に、毎日の作業を見直し、今できることを前向きに行っていきましょう。最後になりますが、本誌読者の皆様のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

新年の挨拶

女性会会長

八木沢恵子



あけましておめでとうございませう。皆様におかれましては、健康やかに新春を迎えられたこととお慶び申し上げます。女性会会員の皆様、組合役職員の皆様には女性会活動に対しまして格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は、一年延期中で2020オリンピック、パラリンピックが開催され、コロナ禍ではありましたが、日本選手のメダルラッシュに、多くの人が感動し、勇気づけられたことと思っております。

さて、女性会の活動といたしましては、全体研修会を自粛し会員の皆様へ帽子を配布することいたしました。また、活動の一環として、第49

回全国酪農青年女性酪農発表大会が7月にリモートで開催され、全国の酪農に配信されました。画面を通して、臨場感のある素晴らしい発表大会となりました。

今年こそは、皆様とお会いできることを楽しみに願っております。

組合において、年に2回牛舎環境調査が行われますが、この機会に、日々の記録・記録の再確認や、普段できない部分の掃除を家族や従業員が協力して行い、よりきれいな牛舎環境を目指しましょう。そしてそれを安全で美味しい生乳の生産につなげたいと思っております。

酪農は一日一日の積み重ね、一年一年の積み重ねであり、息の長い仕事だと思っております。厳しい今の状態が、長く続くことはないと思っております。少しづつ、前へ前へと進むよう頑張っていきたいと思います。

本年も、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご発展とご多幸をご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

部課だより

生乳受託課

令和3年11月度の組合生乳生産量は、2万7111t（前年比109.3%）となりました。各支所の受入乳量は、那須高原支所1万4367t（前年比114.1%）、宇都宮支所2336t（同101.0%）、県南支所4008t（同99.1%）となり、出荷者数は前年同月より21戸減の353戸（内、学校1）となりました。

11月度の組合平均乳質は、脂肪率3.91%（前年差+0.02%）、無脂固形分率8.91%（同+0.02%）と乳成分は上がり、体細胞数についても18.17万と前年より約1万低下し改善されている状況です。

関東生乳販連の11月の総受託乳量は8万4142t（前年比103.0%）となり、10ヶ月連続し前年を上回る状況です。用途別販売数量を見ると、学校を除く飲用向けが前年比101.4%、学校向けが同102.0%と共に前年を上回りましたが、生産量の増加に伴い、脱粉・バター等向けやチーズ向けが前年を大きく超過して

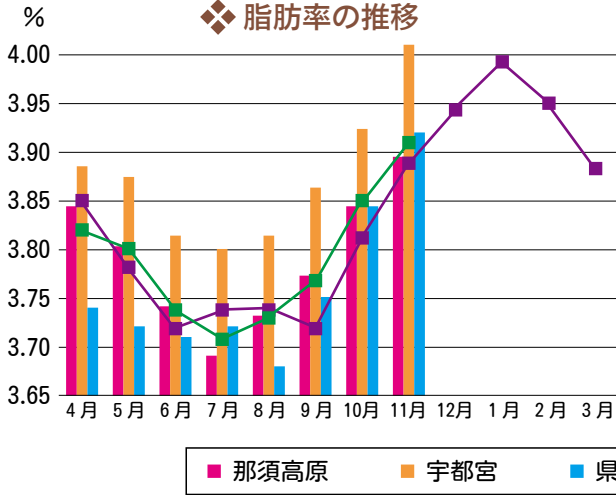
ます。全国の生産量は103.2%と25ヶ月連続で前年を上回りました。北海道が前年比104.4%と33ヶ月連続で上回り、都府県も101.6%と4ヶ月連続で前年を上回りました。

なお、令和3年11月度の生産量・乳質、及び関東生乳販連の用途別販売数量は別表の通りです。

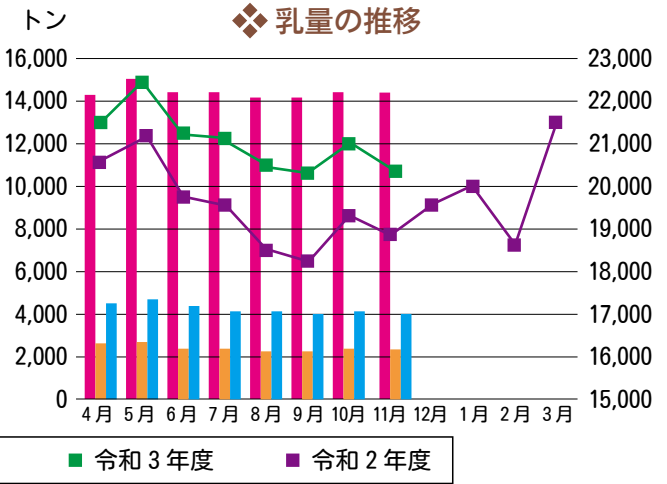
令和3年度 関東生乳販連用途別販売数量 (単位: kg・%)

用途	11月期実績	前年同期実績	前年比	11月末実績(累計)	前年同期実績	前年比
飲用牛乳向け	65,735,651	64,779,630	101.5	534,121,731	520,966,689	102.5
(うち学校を除く飲用)	53,837,708	53,115,963	101.4	456,899,607	456,171,524	100.2
(うち学校向け)	11,897,943	11,663,667	102.0	77,222,124	64,795,165	119.2
はっ酵乳向け	11,735,079	12,167,400	96.4	98,760,011	101,478,033	97.3
脱粉・バター等向け	5,531,453	3,574,255	154.8	54,976,398	45,562,429	120.7
(うち委託加工向け)	0	0	-	0	0	-
生クリーム等向け	1,044,379	1,119,487	93.3	8,289,972	8,982,527	92.3
チーズ向け	95,626	66,993	142.7	752,887	521,238	144.4
全乳哺育向け	0	0	-	0	0	-
総受託乳量	84,142,188	81,707,765	103.0	696,900,999	677,510,916	102.9
脱粉・バター等向け比率	6.57	4.37	-	7.89	6.72	-

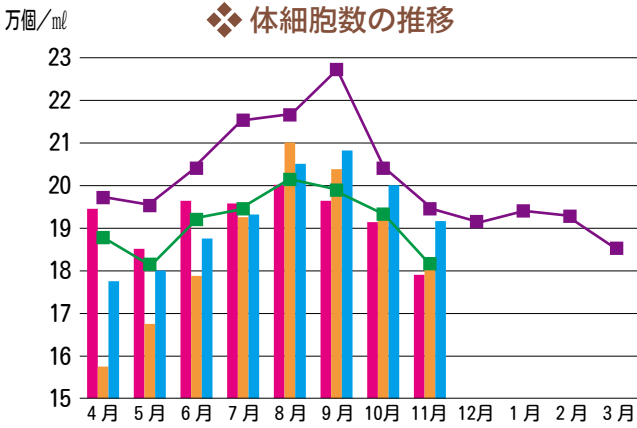
◆ 脂肪率の推移



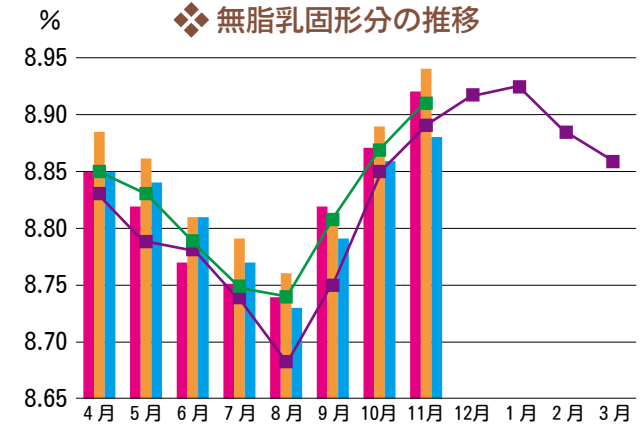
◆ 乳量の推移



◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分の推移



那須高原支所

牧場満喫！小学生が搾乳体験

11月15日、那須塩原市青木の小針勤牧場（青年部黒磯支部員宅）で、地元青木小学校3年生22名を牧場に招待して搾乳体験を実施しました。この行事は、青年部黒磯支部青木地区と青木小学校が連携し、市の基幹産業である酪農について、子供たちの理解を深める学びの場として毎年行われています。

最初に、メインイベントの搾乳体験を行い、関東生乳販連所有の搾乳体験車（わくわくミルクキョウカー）で一人一人順番に搾って頂き、青年部員が丁寧に搾乳のお手伝いをしました。始めは上手く搾れない子も、プロのアドバイザーをよく聞いて上手に搾れるようになり、みんな笑顔で終える事が



青木小学校3年生の皆さん

できました。体験後に、ミルク搾乳の実演を見て頂き、子供たちは牛乳が沢山出る様子に目が釘付けでした。続いて、バター作り体験を行いました。出来たバターはクラッカーに付けて食べ、牛乳・ホットミルクを一緒に飲んでもらい、牧場の味を満喫して頂きました。最後に、記念のお土産をお渡しして、元氣いっぱいのお礼の挨拶を頂き無事終了しました。

今年も、小学校の先生方や青年部員の皆様のご協力の下、感染症対策を講じた中で実施することができました。子供たちには楽しい思い出を作ってもらおう事が出来たと思います。また、今回の体験をきっかけに、酪農について理解を深め、国産牛乳・乳製品の消費拡大の一助になったことと思います。青年部員の皆様、誠にありがとうございます。

宇都宮支所

那須烏山市酪農組合（平野恒夫組合長）は去る11月26日、乳製品消費拡大推進を目的に那須烏山市へ業務用バターの無償提供を行いました。

市役所を表敬訪問し、田代和義教育長と対談並び目録の贈呈式を執り行いました。現在の酪農情勢をご理解頂くと共に、バターをより多く使った献立を栄養士の方に検討して頂くようお願いをして参りました。今回の取り組みを学校給食センターが発行する『給食だより』にも



平野恒夫氏から田代和義教育長へ目録の贈呈

取り上げて頂けることで、バターを使った給食の献立を各ご家庭でも作って頂き、バターを含めた乳製品全体の消費拡大につながることを願っております。

理事会だより

11月度理事会（11月30日）

報告事項

- (一) 組合員加入について
- (二) 業務経過報告について
- (三) 組合資金貸付について
- (四) 役員定数等検討協議会報告書について
- (五) 乳製品購買運動の実施について
- (六) 関東生乳販売情報について
- (七) 協議事項

お知らせ

《組合員加入のご案内》
酪農とちぎは、組合員の皆様の力と出資金により運営されております。一口一〇〇〇円の出資から加入可能です。酪農に従事されているご家族の方等の加入を是非ご検討ください。加入をお待ち申し上げます。

11月度 県内家畜市場成績（単位：円（税込））

市場名	種別	出場頭数	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均	前回比
那須(11/30)	F 1 雄	178	178	65	324,500	22,000	178,231	12,355
	F 1 雌	138	137	65	278,300	66,000	155,124	29,999
	ホルズ雄	133	133	64	155,100	550	101,085	12,156

今回の初生牛相場は前回から比較して、全畜種で強含みで推移しています。F 1 雄の相場動向を見ますと、前回比12千円のプラスとなっていますが、前々回（11月20日）の平均比較では16千円のマイナスとなっています。11月は回ごとに価格の上下がりましたが、7月の平均価格（273千円）をピークに下落基調で推移しております。例年冬から春先にかけて価格は下落傾向を引くことが多く、今後はもちあい～やや弱含みで推移するものと思われます。引き続き経済状況、コロナウイルスの感染状況、緊急事態宣言等の外的要因で予測不能な動きをする可能性もありますので、注視していく必要があります。

11月度 ホクレン初妊牛市場成績（単位：千円（税込））

市場名	開催日	出場頭数	成立頭数	取引率	平均価格	（そのうちET牛）		
						出場頭数	成立頭数	平均価格
十勝	11月4日	611	470	76.9%	605	90	75	809
根室	11月15日	549	468	85.2%	609	36	33	842
釧路	11月16日	365	318	87.1%	531	15	15	888
北見	11月17日	406	319	78.6%	517	12	10	765
豊富	11月18日	358	293	81.8%	515	2	1	440
十勝	11月25日	819	754	92.1%	618	126	111	813
合計		3,108	2,622	84.4%	566	281	245	760
前月		3,158	2,600	82.3%	596	277	231	758
前年同月		2,905	2,568	88.4%	724	209	192	852

初妊牛の今後の動向は3月～4月上旬分が中心となります。11月までの市場は資源頭数が潤沢であり、都府県・道内購買者の意欲が低い影響からおおむね弱含みで推移しました。春産み初妊牛が上場するシーズンが間もなく始まりますが、潤沢な資源があること、購買者の意欲が低いこと、生乳の需給緩和が長期化していること等の諸影響により、今後の相場は概ねもちあい～やや弱含みで推移するものと思われます。導入を希望される方は腹条件、分娩月をご検討の上でお申し込みをよろしくお願い申し上げます。